
第4回 日野町議会定例会会議録 (第3日)

令和5年6月15日 (木曜日)

議事日程

令和5年6月15日 午前10時開議

日程第1 一般質問

通告順番6 5番 梅林 智子 議員

通告順番7 4番 中山 法貴 議員

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

通告順番6 5番 梅林 智子 議員

通告順番7 4番 中山 法貴 議員

出席議員 (10名)

1番 小林 良 泰

2番 小 河 久 人

3番 坪 倉 敏

4番 中 山 法 貴

5番 梅 林 智 子

6番 金 川 守 仁

7番 松 本 利 秋

8番 安 達 幸 博

9番 竹 永 明 文

10番 中 原 信 男

欠席議員 (なし)

欠 員 (なし)

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 中 田 早 文 書記 ————— 伊 達 達 彦

書記 ————— 三 好 達 也

説明のため出席した者の職氏名

町長	—————	埴田淳一	副町長	—————	音田守
教育長	—————	生田求	総務課長	—————	景山政之
住民課長兼会計管理者	——	荒木憲男	企画政策課長	—————	神崎猛
健康福祉課長	—————	住田秀樹	産業振興課長	—————	五百川和久
建設水道課長	—————	音田雄一郎	教育課長	—————	遠藤律子

午前10時00分開議

○議長（中原 信男君） おはようございます。

ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和5年第4回日野町議会定例会3日目を開会いたします。

出席議員にはタブレット端末機の使用を例規確認のため許可しておりますので、御了承ください。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（中原 信男君） 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き、2名の議員の一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

5番、梅林智子議員の一般質問を許します。

5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） 参政党の梅林智子でございます。どうぞよろしく願いいたします。8年ぶりに帰ってまいりました。大変緊張しております。ちょうど、何か騒がしいようでございますが、このまま続行してもよろしゅうございませうか。

○議長（中原 信男君） どうぞ。

○議員（5番 梅林 智子君） 私は3つの点について質問いたします。

1番、熱中症対策、2番、J-ALERTについて、それから3番目に子ども基本法をどう生かしていくかでございます。

熱中症対策についてです。質問の趣旨・背景について御説明いたします。統計によりますと、

過去5年間平均すると1, 295名の方が熱中症によって亡くなっています。本町でも貴い命が失われたことを忘れることができません。この状況を見て、政府は2030年までに被害を半分にする目標を立てています。鳥取県内では、昨年も、4月から10月の間ですが、熱中症での救急搬送が564名でした。そして、そのうち328名が65歳以上でございます、約6割ですね。今年も5月中旬から大変暑い日が続いております。熱中症警戒アラートが鳴り続けるようなことに備えておくのが必要だと考えます。

具体的に回答を求める事項を申し上げます。

1、エアコン設置状況の確認、実態調査をするべきではないでしょうか。2番、中国電力は、6月から1か月平均1,667円の値上げを発表しています。物価が上がり、収入は増えていない状況で、私たちはどう生き延びていけばいいでしょうか。低所得者世帯への助成が必要ではないでしょうか。3番、生活保護世帯には、餅代、炭代というようなかなり古い表現でございますが、冬季加算はありますけれども、夏季加算は全くありません。エアコン設置や電気代の支援を実施する、きちんとそういうふうの方針転換をするべきではないかと思えます。どうでしょうか。

J-ALERTについてです。ミサイルが日本に向けて発射されるたびに私たちは恐ろしい思いをしているわけですがけれども、実際どう対処したらいいか、よく分かりません。実態を知りたいと思しますので、よろしくお願いします。

具体的に回答を求める事項を申し上げます。

1番、J-ALERTはどんなときに町の防災無線から発せられるのか。2番、日本周辺の国が日本へ向けてミサイルを発射するべく設置していると聞きますが、町長はどのように把握しておられますか。どの国が何か所で設置しているのでしょうか。その種類はどうなんでしょうか。3番、我々町民は、そのときどう行動すればいいのでしょうか。お示してください。例えば自宅にいるとき、屋外にいるとき、都会のほうに出ているとき。4番、今後どのような対処をお考えでしょうか。

最後に、子ども基本法をどう生かしていくかです。日野学園のスタートとこの子ども基本法施行が一緒であることが、私にはとても明るい未来を感じられ、喜ばしい限りでございます。

具体的に回答を求める事項を申し上げます。

全ての子供が将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、我が町はどのようなことを推進する予定ですか。取組をお示してください。よろしくお願いします。

○議長（中原 信男君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 5番、梅林議員さんの御質問にお答えいたします。

まず初めに、エアコンの設置状況の確認、実態調査をすべきではとの御質問にお答えいたします。御質問のとおり、今年も5月に入り高温多湿の日が多く、鳥取県内でも熱中症警報が発令されるなど、エアコン設置状況の把握については必要であると認識しております。熱中症に対する適切な予防の啓発につきましては、民生委員や地域支え合い推進員などによる啓発チラシやグッズの配布、防災無線などで実施しております。熱中症予防策の中で効果的なものとして、エアコンを上手に活用することが上げられます。このような状況の中、現在、75歳以上のみの世帯につきましては、地域支え合い推進員が訪問時に聞き取り調査を実施しており、対象の50%程度は把握できており、今後も引き続き調査を実施していく予定としております。

次に、光熱費の高騰により、低所得世帯への助成が必要ではないかとの御質問にお答えいたします。長期化する物価高騰による家計負担への増加につきましては、住民の皆様生活にかなりの影響を及ぼしていると認識しています。現在、低所得世帯への助成につきましては、国が実施する住民税非課税世帯支援給付金、そして、町が実施する生活困窮世帯に対する光熱費助成事業の実施に向け準備を進めているところでございます。これらの給付事業と生活福祉資金などの貸付事業、その他生活支援の制度をうまく組み合わせた支援ができるよう、健康福祉課内に設置する生活支援の相談窓口にも柔軟な対応をするよう指示しているところでございます。

次に、生活保護を受けられている世帯に対し、エアコン設置や電気代の支援をすべきではないかとの御質問にお答えいたします。まず、電気代の支援につきましては、さきに述べました国や県の事業による光熱費助成や、非課税世帯に対する給付金を生活保護世帯にも支給することとしております。また、県の事業としまして、毎年8月に被保護者等に対する見舞金を支給しております。支給額は1世帯が5,000円、2人から3人世帯に5,300円など、世帯人数によって異なりますが支給しております。また、生活保護制度のエアコンの設置につきましては、臨時的な一般生活費の一つとして、冷房器具の支給が認められております。これには認定基準があり、熱中症予防が特に必要とされる高齢の方、障害のある方などのほか、健康状態、住環境などを考慮し、福祉事務所が判断することとなっております。

次に、J-ALERTはどんなときに町の防災無線から発せられるのかのお尋ねでございます。J-ALERTは正式には全国瞬時警報システムといいますが、武力攻撃等における国民の保護のための措置に関する法律に基づき、緊急事態や災害時に消防庁から地方自治体の関係機関などに警報が発信され、防災無線のほか、テレビ、ラジオ、インターネット、携帯電話など、様々な放送手段を通じて伝えられることとなっております。町では、行政防災無線により警報を発信することとなっております。発せられる内容でございますけれども、まず、外国などからの

ミサイル発射情報や大規模テロの情報など、国民の保護に関し危機が迫っている場合で、ミサイル情報であれば着弾予想地点周辺地域ごとにミサイル警報が発せられます。その中には避難方法などの指示も含まれているということでございます。また、震度4以上の地震が発生するおそれがある場合は、緊急地震速報として被災想定地域に対して情報が発信されるということでございます。

次に、日本周辺の国がミサイルを何か所設置しているのか、また、その種類についてのお尋ねでございます。日本周辺の国のミサイル発射の設置箇所につきましては、県にも確認いたしましたけども、公開されている資料がございませんので把握はしておりません。ミサイルの種類につきましては、国が公開している令和4年度防衛白書によりますと、日本周辺の国でのミサイルの種類及び数は、ロシアが大陸間弾道ミサイルを339基、潜水艦発射弾道ミサイルを176基、中国が大陸間弾道ミサイルを106基、長距離または中距離弾道ミサイルを278基、潜水艦発射弾道ミサイルを72基保有していると白書には記載されております。

次に、自宅、屋外または都会に出ているとき、どう行動すればよいかとのお尋ねでございます。警報が発令された場合は、速やかに公式の情報源、主に防災無線、テレビ、ラジオ、インターネットなどを確認し、指示に従うことが重要となります。基本的には安全な場所への避難として、地下鉄や地下街、避難施設など、できるだけ頑丈な建物や地下に避難することが理想的とされております。本町ではそのような場所はございませんので、自宅などの屋内にいる場合は窓から離れるか、窓のない部屋に移動することが大切です。屋外にいる場合は、できる限り丈夫な建物に避難し、建物が無い場合は物影に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守ることが大切です。また、都会に出ている場合には、場所によっても思われますが、先ほど述べた屋内、または屋外と同様の対応となると思います。いずれにいたしましても、J-ALERTや公式の情報源を基に、落ち着いて行動していただきたいと思っております。

次に、今後の対処についてのお尋ねでございます。住民の皆様への啓発や町が毎年行っている全町一斉防災訓練などのように、弾道ミサイルを想定した訓練につきましても、国民保護の観点から検討していく必要があると考えております。

最後に、全ての子供が将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、町はどのようなことを推進するかというお尋ねにつきましては、指定答弁が教育長となっておりますので、教育長から答弁させます。

○議長（中原 信男君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 梅林議員の御質問にお答えいたします。

町としましては、本年4月に施行された子ども基本法の内容に沿って、子供の健やかな成長をサポートする施策、例えば居場所づくり、いじめ対策などの取組を進めることや、働きながら子育てしやすい環境づくりなどを行っていくことが必要だと考えます。

これからの子供たちが生きていく時代は、将来を予測することが困難な時代とされています。また、将来、今ある仕事がAIやロボットに代替され、自動化される可能性が高いと予測される一方で、出生率も過去最低となり、少子化の加速が止まらない状況です。このような時代を生きていくためには、一人一人が社会の変化に主体的に向き合い、関わり合って、よりよい社会と幸福な人生を自らつくり出すことが大切だと思います。そのために学校教育においては、社会観や職業観に基づいたキャリア意識、必要な情報を選択し活用する力、他者と協働して課題を解決したり、新しい価値を見いだしたりする力を育てていかなければなりません。ふるさとキャリア教育の推進、高校生や大学生、他市町村児童生徒との交流、ICTや学校図書館にある書籍などの有効活用、他者との関わりの中で課題を解決する授業、異学年集団での活動、様々な場面での意見表明などの取組を日野学園においてさらに進めていきたいと考えております。そして、このような取組を進めていくためには、一人一人の児童生徒が安心して学校生活をはじめ、家庭生活、地域での生活を送ることが必要です。そのため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる支援、不登校、いじめや特別支援に係る連絡会、ケース会議などの開催、家庭教育支援チームによる保護者へのサポート、放課後子ども教室をはじめとする地域学校共同活動などを行ってまいります。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） ありがとうございます。

熱中症対策のほうを伺います。もう早速、75歳以上の方の現状把握をしてくださっているということで、大変ありがたいと思いますが、今、50%ぐらい終わってるってことですが、その終わってる50%の中での比率はどれぐらいになっておりますでしょうか、エアコンの保有率。現状をお話してください。

○議長（中原 信男君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 私のところに75歳以上の世帯の方の、どういうんですか、見守り活動の報告が来るんです。そこに、今回の活動ではこういうことをしましたよということで、かなりそれを見ますと、エアコン使ってますよってというようなお話があったり、こういうときに使わないといけないよってアドバイスしたり、標高の高いところのおうちでは、いや、エアコンなんか要らん要らん、涼しいから全然大丈夫だでってというような、そういうようなコメントが書いてあ

って、結構丁寧に、どういうんですか、把握してあるんだなっていうふうに思います。

御質問のどのくらいの割合かっていうようなことにつきましては、担当課長のほうから補足させます。

○議長（中原 信男君） 住田健康福祉課長。

○健康福祉課長（住田 秀樹君） お答えいたします。

まだ半分程度しか把握できてないんですけれども、その半分の御家庭のうち、エアコンがない御家庭が、正式な数ではないんですが、15パーから20パーの間ぐらいかなというふうに認識しております。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） ありがとうございます。

この調子でどんどんと、75歳以上の方、やっぱり家の中にいて熱中症で亡くなるっていうケースがないわけではありませんので、頑張ってこの調査を続けていただきたいと思います。

次に参りますね。その次の光熱費の高騰ですよ。1,667円も平均で上がるという電気代ですが、やはり生活に重くのしかかっております。これが生活困窮者に対する光熱費助成とか非課税世帯の支援給付金でこれを実施されるということですが、これは1人1万円の暮らし応援商品券事業のことを指していらっしゃるのでしょうか。

○議長（中原 信男君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 今回予算に上程させていただいた1万円というのは、これは全町民を対象にということでございます。本問のほうでお答えしました住民税非課税世帯支援給付金であるとか、生活困窮世帯に対する光熱費助成事業、こういうものにつきましては、低所得世帯の方に助成をするっていうものでございます。金額まで申しましょうか。

○議員（5番 梅林 智子君） はい。

○町長（埴田 淳一君） 金額のほうは担当課長のほうから。

○議長（中原 信男君） 住田健康福祉課長。

○健康福祉課長（住田 秀樹君） お答えいたします。

住民税非課税世帯支援給付金が1世帯当たり3万円、生活困窮世帯に対する光熱費助成事業、これが1世帯当たり5,500円掛ける、今、6か月分予算を計上なり要求しておるところでございます。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） 大変タイムリーに考えていただいている、本当にありがたい限り

だと思います。よろしく願いいたします。

次の、生活保護世帯のほうには、冬季加算はあるが夏季加算がないという点なんでございますけれども、これについては、福祉事務所が判断するというところがちょっと悩ましい気がするんですね。同じような条件であっても、福祉事務所の判断によって違う結果が出るかもしれない。本当はお願いしたいけれどもどうなのかなっていうふうに迷ってしまうケースがあるかと思えます。これについて、何ていうんですか、とっても微妙なところなので、困るとこだなというふうには思うんですけれども、とにかく健康で文化的な最低生活の保障というためにこの生活保護制度があるわけですので、やはり平等なやり方を貫いていただきたいというふうに思います。

それから、このほうに障害のある方っていう表現がされていますけど、その障害のある方というのはどういう方のことを想定していらっしゃるのでしょうか。お願いします。

○議長（中原 信男君） 住田健康福祉課長。

○健康福祉課長（住田 秀樹君） お答えいたします。

相談があったときに、その方とお話をしながらうちのほうも判断していこうと思っているんですが、障害のある方っていうことになると、身体ですとか精神ですとか、様々な障害の種類があろうかと思えますので、一般的にそういった方でございます。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） 精神のほうなんですけども、実は自律神経を病んでしまうような鬱病であるとか自律神経失調症と言われる方の中にも、体温調節がうまくできなくて、熱がどんどんどんどん体の中にたまってしまうという、そういうタイプの方がいらっしゃいます。こういう方こそ本当に助けてくれが言えないんですよね。自分のこともやはり認識が不足してしまうというかね、これぐらいで大丈夫、私は外から見て何の障害もないように見えるのに、そういう病気があっての障害だからというので、一步引いてしまわれるケースがあるのではないかなというふうにとっても心配するんですが、希望といたしまして、その現場の方に、鬱病の方に、ちょっと優しい気持ちを持っていただきたいというふうにお願いをしておきます。

では、J-A L E R Tのほうに参ります。本町には防災監という立場の方もいらして、J-A L E R Tについて、本当に今の説明をいただきまして、よく分かったという気がいたします。今までは本当に大陸間弾道ミサイルが発射されたとき、そのときだけのためではないかというふうに思ってた人もあるかもしれません。でも、本当は、地震もあれば、大規模テロとか、そういうときも鳴るんだということが分かったと思います。そして、もちろん地震も震度4以上、ですから、かなり大きい地震のときに鳴るんだということも町民の皆さん分かってくださったかなとい

うふうに思います。

その次の、日本周辺の国がどれだけのミサイルを持っているか、どれだけのそういう武器を持っているかということについて、防衛白書のほうから御説明いただきました。本当にありがとうございます。なかなか一般住民ではここの部分っていうのは分からないとこでするので、これを示していただいたというのは、本当にありがたいと思います。ロシアが大陸間弾道ミサイルを339基、潜水艦発射弾道ミサイルを176基、中国が大陸間弾道ミサイルを106基、長距離、または中距離弾道ミサイル278基、潜水艦発射弾道ミサイルを72基保有、この事実を教えてくださいましたことに本当に感謝申し上げます。

そこで、町民の皆さんというのは北朝鮮のことをとっても気にしていると思うんですよ。今までミサイルが撃たれたっていうふうに騒いだのは、ほぼ北朝鮮のほうが多かったと思うんですが、これが、この北朝鮮の状況をよく分からない、言及がなかったというのはなぜなのか、教えてください。

○議長（中原 信男君） 北朝鮮の言及がなかった。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 防衛白書につきましては、毎年、防衛省の方々が、今回こういう白書ができましたので、ちょっと御紹介いたしますっていうことで、毎年私のとこに来て、ページをめくって説明していただいているんです。これは国の機関、霞が関のいろんな機関が、自分のとこの省庁がどういうことを今やってるかっていうような、その一連の中で防衛省の説明がありました。今回、ミサイルの数とかそういうのを防衛白書のほうで見たんですけども、北朝鮮につきましては、御案内のように、情報っていうものがほとんど出ないっていう国なので、そういう情報はございませんし、ひょっとしたら、もう上空の偵察衛星みたいなので把握してるかもしれないけど、じゃあ、これだけですっていうと、情報衛星の精度っていうのも分かるっていう、何かやっぱりちょっと緊張感があるのかなって思います。要は、分かりません。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） 悩ましいとこですよ。インターネットなんかで見ますと、本当にこれは本当の情報かどうなのか分からないですが、中国は2,000基ものミサイルを日本の主要都市に向けているんだ、照準が合わさってるんだっていうようなことも書いてあるものを見ることがございます。そういうものを見ると、本当に、どうしてこんな事態になったんだろうかっていうふうに大変不安になるわけですが、町長のおっしゃることもよく理解いたしました。ありがとうございます。

それで、そのときに私たちはどういうふうに対処したらいいかですけれども、先ほど教えていただいたように、とにかく頑丈な建物の中に入る、それから、都会では地下街であるとか、そういうところとにかく身を隠す、そういうことでよろしいわけですね。そのときに、例えば地元にいるときにJ－ALERTが鳴った、実際に動くときに、消防団の人たちの活動がやっぱり一番身近に頼りになるものではないかと思うんですけれども、J－ALERTに関しての消防団の、J－ALERTに特化した、弾道ミサイルに特化したような、そういう訓練も、住民のほうもやっぱり考えておかなければならないんじゃないかというふうに思うんですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（中原 信男君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） どういうんですか、先般も6月の初めからミサイルを撃ちますよっていうような、そういう情報操作をされた国ですので、いろんな想定の中で、発射されたら10分程度で飛んでくるっていうか、着弾するっていうか、そういうような状況もある、10分間。頑丈な建物の中とか、頭を低くしてくださいって、直撃は、これははっきり言って駄目なんですけれども、要は、ミサイルが地面とか何かに接触して爆発したときの爆風とか破片とか、飛び散った石とか、いろんなものから身を守らないといけないっていうことで、先ほど屋内、屋外、それからいろんなことを申しました。その10分間に消防団、J－ALERTが鳴って10分、マックス10分にしましょうか、どういう行動ができるかっていうと、具体的に、鳴って10分間で参集して、さあ、それからっていう、そこはなかなか私、難しいんじゃないかと。やはりJ－ALERTの放送とかそういう警報を聞いたら、まず、住民それぞれの方が身を守る行動をやっていただく。そして、不幸にして日野町内にそういうのが落ちた場合、どうやってその救助とか支援をしていくか、そちらのほう消防団の役割になってくるんじゃないかなと思います。これは消防だけではないかもしれません。そういうことも含めた訓練とか、やっぱりそういうものもしておかないといけないっていうこともあろうかと思えます。

何か補足、総務課長のほうから。じゃあ、ちょっと補足を総務課長のほうからさせます。

○議長（中原 信男君） 景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） 先ほど町長が述べられましたように、住民の方はまず、J－ALERTが鳴った場合は自分の身を守る避難をしていただきたいと思います。消防団員におかれましても、まずは自分の身を守る行動、まずそれが第一優先だと思います。消防団といたしましては、その後の活動、ミサイルが着弾した場合によりましては、すぐにその場所に近寄ることも危険な場合もございます。状況を判断した上で、消防団のほうはそれの救助支援等にまたお願いするこ

とはあろうかと思えます。いずれにしましても、近年の状況を見ますと、自然災害、火災以外にもいろいろな事案が出てきているのが現状でございますので、こういった部分につきましても、消防団との話合いの中で、何かしらの訓練ができないか、また協議をしてみたいというふうに思います。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） ありがとうございます。消防団の方たちも本当に大変だと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

今後の対策なんですけど、私は一つ、とても気になっていることがございます。それは、年間に2億回とも言われるサイバー攻撃についてなんです。サイバー攻撃。これは昨日の新聞ですけど、LPガスのシステムの中にサイバー攻撃を受けて、1,100社の検針システムが停止してしまっただけで、本当にとても多いですね。航空機が止まったり、年間本当に2億回ですから、物すごい数のサイバー攻撃を受けているんですけども、私は日野町は大丈夫なのかなっていうふうに思うんですが、日野町の中でサイバー攻撃に特化した対応をする職員の方って、そういう係っていうのがあるんでしょうか。

○議長（中原 信男君） これはちょっと質問事項の、サイバーの今の年間2億回ですか。それは全国的な回数で、最近ではLPガスのシステムにそういう攻撃があったということなんだけども、サイバーに関わることで、今の質問で答えられる、総務課のほうは。

梅林議員、着席ください。答弁させますので。

景山総務課長。

○総務課長（景山 政之君） サイバー攻撃についての御質問でございます。サイバー攻撃専門の担当職員おりませんが、情報担当の職員が総務課におります。行政のシステムについてのセキュリティー対策、そういったものの業務に携わるとる職員は総務課のほうに配置しております。

サイバー攻撃等につきましても、近年いろいろな分野で、いろいろなシステムですね、行政、民間問わず、いろいろな分野で通信回線を使った攻撃が行われているということは承知しております。本町でもセキュリティー対策ということで、通常回線と業務用の回線とを分離したり、そういったことで外部からの攻撃を受けないようなシステム構築を現在行って業務を行っております。いろいろ日々技術と申しますか、相手方の技術も進んでるといふ部分でございますが、いろいろな部分でこちらもセキュリティーを強化しながら対応しとるといふところでございます。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（５番 梅林 智子君） 急な質問でしたのに誠実にお答えいただき、本当にありがとうございます。

では、子ども基本法のほうに参りたいと思います。教育長さん、答弁いただきましてありがとうございます。私が考えますふるさとキャリア教育ですね、これについて、やはり各学年でいろんなテーマを設けられていたと思うんですけれども、その底辺に流れるっていうんですかね、子供たちの自尊心を徹底的に強固なものにするために、やはりこれが日野町の教育だっていうような、太いものが必要ではないかっていうふうに考えるんですが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（中原 信男君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 梅林議員の御質問にお答えいたします。

確かに議員のおっしゃるとおり、どういった子供たちを育てていくかということに関しては、町としての教育の基本的なものというのは大変必要なものになるかと思えます。そのために、まずは日野学園では、キャリア教育というのを中心に進めていこうと。その中にはばたき科というような特設の教科を設定して学習していこうというふうなことを考えております。

どのように自尊心を持っていくかということについてですが、昨日の答弁の中にもあったかと思いますが、自分たちの住んでいる町というもののよさというのは、なかなか自分たちでは気づかない、当たり前だと思っているものが、実はとても重要なもので、素晴らしいものだということになかなか気づかないというようなこともあります。そうした中で、今日の先ほどの答弁の中にもありましたが、例えば高校生や大学生であるとか、あるいは他の市町村の児童生徒との交流の中で、外の目から見た日野町のよさというのをそういう交流の中で知って、改めて自分たちの住んでいる日野町のよさというものを再認識していく。

それから、なかなかこういった町に住んでいると、いろいろな人と関わる機会が非常に少ないのが実情だと思います。ですので、ICTとかを活用しながら、あるいはCHA³プログラム等を活用して、大学生やそして地域の大人の方と関わり、話をし、自分の将来の姿をそこで改めて考えていくというような教育を進めていくことが大切だと思っております。

それと、あともう一つ、子ども基本法の中にもありますが、自分の考え、意見をきちんと表明していくということが非常に大事なことだと思っております。幾ら権利があっても、自分の考えをしっかり持って、それを周りの人にしっかりと伝えていくという力をつけていく必要があるかと思えます。ですので、そういった発表の場をどんどんつくっていくであるとか、あるいは昨年度もありましたけども、小学生議会、それをもっともっと、小学生だけではなくて、中学生とか、そういうところにも進めていって、町のそういった活動にもいろいろ参画していくというよ

うな場面も増やしていきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員。

○議員（5番 梅林 智子君） ありがとうございます。本当にそうですよね、私も同感でございます。私は小学校1年生、2年生、同じ先生に担任していただいたんですけど、そのときの先生がいまだに心の中に大きく残っております。その先生に褒められたくて、その先生に認めてもらいたくて、よく頑張ったねって言うてもらいたくて、その後ずっと頑張ってきたように思うんです。何かがあれば、その先生のところに手紙を書いたり、今でもそうです。私は、本当にいい教育をしていただいたんだな、小学校1年生、2年生、全体ももちろんあったわけなんですけどもね、その先生ただお一人だけのことではなくて。一人一人を認めて、褒めて、褒めるっていうのも、私もただ褒められただけではない、チョークがぴしっと飛んできたりして、悪さをして叱られたもんでございますけれども、でも、やはり小さな小さな褒められるであるとか、認められるという成功体験の積み重ねが、小さな心に大きな芽を育むっていいですかね。今、学校の子供たちを見てると本当に忙しそうで、短い時間であっち飛びこっち飛びしないといけないし、本当に遅れないように、忘れないようにっていうんで、本当に日々一生懸命頑張っていると思います。また、先生たちもお忙しいんじゃないかなっていうふうに思うんです。生徒の数は少なくなっても、やっぱり先生たちに心の余裕がないと、一人一人の子供の顔色やそういう、私が先ほど申しましたように、廊下に落ちていたごみを拾ったことを褒められたことがうれしかった、そんなことに目を向ける余裕がないのかもしれないかもしれません。これまた御要望になってしまいますけれども、学校の先生たちの働き方というのも大変苛酷だというふうに伺っております。どうぞその辺も支える学校教育であってほしいということをお願いして、これで私の質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（中原 信男君） 5番、梅林智子議員の一般質問が終わりました。

○議長（中原 信男君） 次に、4番、中山法貴議員の一般質問を許します。

4番、中山法貴議員。大丈夫ですか。どうぞ。

4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） 今回、2つのテーマで質問いたします。

1つ目は、黒坂小学校の跡地活用について。黒坂小学校の跡地活用としまして、日野町リノベーションLabという事業が始まりました。これは研究機関や大学や企業と地域住民が協働で地域のための研究と実験に取り組むという事業です。住民が主役の事業です。住民の積極的な参加

が鍵となります。

そこで、質問1つ目。今年の3月に研究機関や企業と提携を結び開始されたこの事業ですが、現在の進捗状況を伺います。2つ目、住民の機運を高め、積極的に参加してもらうためには、まず事業内容を住民に理解してもらうことが重要です。この事業についての住民説明会はいつ開催しますか。

続いて、2つ目のテーマ、日野高校の存続に向けた支援について。町は、日野高校を存続させるべく支援をしています。令和5年度の予算では3,738万9,000円がつけられています。町が日野高校魅力向上コーディネーターを設置した平成26年から合計すると、日野高校への支援は1億円を超えています。しかし、日野高校は、現在、生徒数の減少により、高校自体が存続の危機です。

そこで、1つ目の質問。昨年度の予算では、日野高校の支援に3,364万6,000円がつけられ、入学者の増加を目標に日野高校の魅力化やPRをしてきました。しかし、今年度の入学者数は過去最低の19名という結果でした。これをどう受け止めているかを伺います。

質問2つ目、来年度の日野高校の入学者数の目標と、目標達成に向けての取組を伺います。答弁よろしくをお願いします。

○議長（中原 信男君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 4番、中山議員さんの御質問にお答えします。

まず初めに、日野町のリノベーションLabの関係でございます。現在の進捗状況についてのお尋ねでございます。

この日野町リノベーションLabでございますけれども、リノベーションはよみがえらせるという意味、そして、Labは研究所、実験室という意味で、日野町をよみがえらせる研究所、実験室として、旧黒坂小学校の多目的教室を拠点に、3月28日に国を含む研究機関さんと連携協定を締結し、令和5年度日野町の地域課題解決の研究、実験、実践をスタートしたところでございます。研究の仕組みは、地域づくりへの町民参加を促すため、研究をキーワードに地域住民とつながり、地域住民を巻き込んだまちづくりの実験や実践をプロの研究チームがサポートして取組の推進を図り、リノベーション、つまり日野町をよみがえらせる仕組みでございます。研究機関とは毎月1回の研究会を開き、研究の調整、横の連携研究と住民を巻き込んだ研究を行っているところでございます。具体的な研究は、農林水産政策研究所は、食料品アクセス問題、地域活性化、関係人口などについて研究いただいております、5月23日から25日は東京からお越しいただき、調査を行い、また、島根県中山間地域研究センターは、集落点検と座談会とセットにした

アクション型リサーチを6月からスタートするようにしております。中海テレビ放送様は、6月からリビングラボ、人づくりの調査、研究、実践の研究を日野町と一緒にすることとしております。さらに、住民の皆さんも住民ラボとして、子供ラボ、高校生ラボ、集落ラボ、グループラボ、住民ラボの構成で立ち上げ、実験、実践を進めていただいております。例えば久住集落では、青パパイアの巻きずしづくり研究を、奥ひの青パパイア研究会とNPOノーム様と連携を図り、商品、販売、イベントなど、研究開発をスタートしております。これらの研究と並行して、イベントを企画し、実行しております。4月16日には、ノームの糸車さんによるおむすびフェア、30日には、黒坂フェスタと共催しイベントを実施しました。また、6月4日にも、代満て・黒坂オールスターズフェスということで、地域の方によるパネルディスカッションやギター演奏、エフエム山陰のラジオパーソナリティー、小片悦子さんによるトークショーといったイベントを開催しております。これは、リノベーションL a bの趣旨を理解いただく、さらには地域の拠点としての旧黒坂小学校を印象づけ、黒坂小の利活用につなげていくことを目的として実施しているものでございます。

次に、住民説明会をいつ開催するのかのお尋ねでございます。現在のところ、説明会といった形での開催は計画しておりません。といいますのも、昨年5月と6月に住民の方に学校跡地利用検討委員会報告書の説明会をさせていただいてるところでございます。黒坂小につきましては、地区の拠点となる施設という具合に説明をしたと記憶しておりますけれども、なかなか参加される方がおられなかったというのが実情でございます。今後は、イベントを開催した際など、機会を捉えて、実地でもって体験や意見交換を通して御理解いただきたいと思っております。町が実施する説明会などへの参加ということではなくて、自発的な参加ということで、リノベーションL a bは動き始めております。一方的な説明ではなく、アイデアをいただきながら進めてまいりたいと思っております。

日野町リノベーションL a bは、研究機関と連携して、地域づくり研究の知の拠点づくりを行う志の高い取組でございます。地域づくり、中山間地域の振興、お住まいの方が自分たちの暮らしを今後どのようにしていくのか、地域をどう次の世代につないでいくかといった課題、問題は、住民の皆様がそれぞれ自分事として考え、参画いただかなくては何も進まないと思っております。日野町リノベーションL a bは、住民誰でも参加できる仕組みとしております。既に多くの皆様から参加してみたいとの連絡をいただいておりますが、今後も、一緒にやってみてほしいと思っております。けるような取組を展開していきたいと思っております。

次に、今年度の日野高校の入学者数が過去最低の19名という結果だったことに対してどう受

け止めているかとのお尋ねでございます。この結果につきましては、令和4年度末の日野高校魅力向上推進協議会ワーキンググループ及び魅力向上推進協議会、さらには日野高校との定例会において話し合い、取組内容や課題について協議してまいりました。過去最低の結果となった入学者数につきましては、率直に、深刻な状況と受け止めております。その要因や課題につきまして協議していく中で、情報発信をしたが、生徒や保護者、学校に日野高校の魅力を十分に届けることができなかったこと、また、入試制度の変化により、私立高校等への入学者が増加していることなどが入学者数減少の要因ではないかと考えております。

最後に、来年度の日野高校の入学者数の目標と、目標達成に向けての取組についてのお尋ねでございます。来年度の入学者の目標値につきましては、日野高校魅力向上推進計画立ち上げ当初の67名を変えず、取組を進めることを日野郡3町で組織する魅力向上推進協議会の中でも合意しております。日野町としましては、昨年度、魅力向上コーディネーターが1名となり、2名体制とすることができませんでしたが、本年度4月からは新たに1名採用し、体制を整えることができました。この体制で日野高校の様々な活動をしっかり支援していくと同時に、地域活動や情報発信など、昨年度までは届かなかったところまで魅力を伝えていけるような取組を進めていくことが重要であると考えております。テレビや新聞等のメディアを通して、コーディネーターが直接日野高校の活動を伝えたり、地域みらい留学説明会に日野郡3町からも出演して、全国へ日野高校の魅力を発信しております。また、高校側の取組といたしましては、中学校や生徒に対する早期の説明会の実施、説明会での個別対応を計画されており、説明会にはコーディネーターも同行する予定でございます。そして、今年度開校した日野学園をはじめ、地元の保育所、郡内の小・中学校、義務教育学校との今まで以上の連携や交流活動の実施など、令和6年度入学志願者募集に向けた具体的な戦略スケジュールも立て、我々とも共有いただきながら、魅力の深化と発信をさらに進めていくこととされており、積極的に動いておられます。

今年度もライフル射撃、合唱、郷土芸能の各部が既に全国大会への出場を決めておられます。そのような今ある日野高校の特色も大きな魅力の一つとして広く発信し、存続に向けて支援をしていきたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） それでは、追加の質問をいたします。

まず、日野町リノベーションLab、黒坂小学校跡地活用についてお聞きします。私は、この日野町リノベーションLabという事業自体に対して反対はしておりません。住民を巻き込んだまちづくりは、むしろ大いに賛成、大歓迎です。黒坂小学校跡地活用につきましても、焦って決

めてしまうより、研究しながら、住民とじっくり考えていくというやり方、これは大いに賛成です。できるだけ多くの町民に参加してもらい、多くの意見を聞きながら、この日野町の課題を研究するという事業を進めてもらいたいと思います。

ただ、この事業、事業の分かりにくさと、今のところ町民への周知、浸透が行き届いてないのではないかという課題があると感じます。この2点について中心に聞いていきたいと思います。

まず、この事業の内容なんですけれども、説明を聞いてもなかなか分かりにくい。そこで、サンプルに聞きます。この事業の目標は地域の課題解決、そして、そのためにどうやったらいいかを研究機関や大学や企業と町民で研究するという理解でよろしいでしょうか。目標は地域の課題解決、それを研究するという事業の理解でよろしいでしょうか。

○議長（中原 信男君） どなたが回答しますか。

神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） リノベーションL a bについてでございます。テーマというのは、今、中山議員がおっしゃられたことで間違いございません。一つ加えさせていただくと、地域住民の方が主体になって、解決に取り組んでいただくというのが最終的な目標でございます。以上です。

○議長（中原 信男君） 塚田町長。

○町長（塚田 淳一君） 今、担当課長のほうから端的に答えましたけども、私の思い、その部分と、やっぱり、どういうんですか、この事業によって日野町にいろんなところが注目していただきたい、情報発信も期待してるんです。本当に高齢化、人口減少の、日本のトレンドで、さらに中国山地沿いの町村も全部そういう感じになっております。もう最先端のことをやっていく。誰もやったことがないことをやっていくんだよね、地域を守るために、地域の課題を解決するために。そういったことで情報発信をしていきたい。そして、その地域の活性化とか地域づくり、この施設を活用するに当たって何が一番大切かっていうと、そういったことに関心を持つ、興味を持っていただく、まさに議員さん、質問の中で書いておられますけれども、事業内容を住民の方に関心を持ってもらう、そういったことが必要なのかなっていうふうに思います。以上です。

○議長（中原 信男君） 事業内容に関心を持ってもらうために、何をするかということをも分中山議員は質問していると思うんだけど。

○町長（塚田 淳一君） 最初に言われたとおり、さらにいろんなことを、こんなことを考えてます。

○議長（中原 信男君） 目標は地域の課題を解決する事業でしょうと、主体は住民なんだけれども、

中山議員が言われるのは、その事業内容を住民の方にいかに周知していくんですかというところを質問をされたと思うんです。

○議員（4番 中山 法貴君） 追加でまたやります。

○議長（中原 信男君） いいですか。

4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） 住民が主体となった事業で、地域の解決、研究をしていくと、あと、情報発信もしていくというようにお答えいただきました。つまり、主役は町民なんですね。先ほど町長の答弁にもありましたように、研究チームはサポート、あくまでサポートだと。主役は町民ということです。町民が参加せずに、研究チームだけではこの事業、成功しません。多くの町民に参加していただき、多くの意見を言っていただくことが重要です。多くの方に参加してもらわないといけないんですが、どのように参加者を募る計画でしょうか。

○議長（中原 信男君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 先ほど来、説明会という話なんですけれども、住民の参加を促すというやり方なんですけれども、先日、中山議員にもお手伝いというか、参加いただいたんですけれども、地域のほうでイベントを開きまして、人の流れをつくる、そういった中でいろいろ意見交換していければなというようなことを考えております。以上でございます。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） イベントについては後ほど質問します。

まず、ちょっと先ほどの町長の答弁の中に、既に多くの皆様から参加してみたいと連絡をいただいておりますという言葉がありました。これ、どこに何件くらい連絡が来ておりますか。

○議長（中原 信男君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 具体的に何件というようなことまでは、ちょっと把握というか、控えておりませんが、いろんなところに出かけさせていただいて、言及はさせていただいてるところです。例えば集落づくりの座談会ということで、各集落に回らせていただいているんですけれども、その中でも必ずこの取組についてはお話をさせていただいているところがございます。それから、高校であるとか、そうですね、日野学園とかにも出かけさせていただいて、生徒や児童の方とお話をさせていただいているというようなこともございます。以上でございます。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） 多くの人に知ってもらわないといけません。現在のところ、この

事業の認知度はどれくらいだと感じておりますか。また、町民の機運は高まっていると感じておりますか。

○議長（中原 信男君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 認知度については、まだまだ当然十分ではないというふうに考えております。いずれにいたしましても、これ3月28日にスタートしたものでございます。いろいろ事業であるとか、説明であるとかさせていただいて、自分も参加してみたいというような声もあって、実際にいろんな事業を展開しているところでございますので、さらに人口に膾炙するということがあれば進んでいくと思っておりますので、そういった方向を目指して、今後もいろんな方法で周知であるとか、参画を促していきたいというような考えでございます。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） いろんな座談会やイベントなどで説明していった、町民の皆さんに知っていただく、参加していただくということですが、先日、6月4日に黒坂小学校跡地で行われました日野町リノベーションL a bの第一弾イベントがありました。代満て・黒坂オールスターズフェスというイベントです。

私、この会場でアンケートを取りました。会場に来場された方に、ボードを置きまして、はいかいいえでお答えくださいと。日野町リノベーションL a bの内容を知っていますかというアンケート。はい、いいえにシールを貼ってくださいというようなことをやったんですが、4時間、5時間ぐらいやりましたね。その結果、内容を知っている、はいが2名、内容を知っている、いいえが14名でした。つまり、これ、まだまだ町民の方はこの事業を知らない。内容について知らないという結果でした。スタートして3か月がたとうとしておりますので、町民が理解しないままちょっともう始まって、進んでいってしまっているところがあります。これについてはどう思いますか。問題だとは思いませんか。

○議長（中原 信男君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） たしか中山議員のユーチューブの中でもそういったことされたのをちょっと拝見したんですけれども、周知されていないと、認知されていないというのはおっしゃるとおりであろうかと思っております。それで、先ほどイベントの際にというような話もしたんですけれども、実は体育館の中でのイベントのときに、大体55人程度参加いただいたようなんですけれども、そのときに趣旨なんかもお話をさせていただいたというようなところでございます。大体楽しんでいただけるようなイベントを開催して、その中で少し皆さんと地域のことを考えていくきっかけにというようなことを話しさせていただいたと思っております。説明会ということではな

くて、そういうことで取組、進んで参加していただくことで、先ほど来申し上げておりますとおり、人口に膾炙されるというようになれば、徐々に広がっていくんじゃないかなというようなことを期待しております。少し長い目で見ていただければ非常にありがたいというふうに思います。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） イベント内で説明、この前もされたと、今後もしていくということなんですが、それだとイベントに来る方にしか分からないということになってしまいます。これ、町をよみがえらせるという一大プロジェクトです。もう町の命運を賭けた一大プロジェクトなんですが、これ、広報ひのにも載ってないんですね、詳しく。これ、載せないのはなぜでしょうか。

○議長（中原 信男君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） すみません、最初に、28日に協定を結んだときに、若干説明については載せさせていただいたと思います。それで十分ではないというようなことかもしれませんので、これについても、今後いろんな取組、毎月取組はやっていきたいというふうに思いますので、その中で御理解いただけるように、さらに広報を深めてまいりたいというふうに思います。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） ぜひ、イベントだけだと、先ほども言いましたけど、イベントに来た人にしかなかなか伝わらないということになりますので、いろんな方法を考えて、できれば全町民に参加してもらうぐらいの周知をしていただきたいと思います。

あと、分かりやすさ、重要だと思います。先ほどイベントのチラシ、お見せしましたが、このチラシだと、細かいことですけど、チラシの件につきますと、これ、トークショーがあるよ、ギターがあるよ、Instagram教室があるよ、校庭で遊ぼうよと書いてあるだけで、何を目的としたイベントかが書かれてないんですね、分からないんですね。リノベーションL a bの趣旨を理解していただくのが目的のイベントであれば、これ、こういうの分かりやすく、ぜひやっていただきたいと思います。

あと、分かりにくさについてなんですけど、これ、よく町民の方から言われます。リノベーションL a bって何だ、その外国語はと。意味が分からないと。これ、日本語では作り直す、よみがえらせる、L a bは研究、よみがえらせる研究、作り直す研究、つまり日野町をつくり直す研究ということなんですけど、これ、日本語でやらないんですか。日野町をつくり直す研究事業、これでよくないですか。なぜこれ、わざわざ難しい外国語にしているのでしょうか。

○議長（中原 信男君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 先ほど町長が申し上げましたとおり、外部から耳目を集めて今後の展開につなげていくというようなことも重要かと考えております。今後サテライトオフィスであるとか、そういったことについても、やはり外部、日野町外の方にも関心を持っていただくというようなことも重要と考えてますんで、少しハイカラといいますか、そういった名前をつけさせていただいたところですよ。

それで、住民の方には、やはりこれについては分かりにくいというようなこと、おっしゃるとおりだと思いますんで、集落に、また繰り返しになりますけれども、最近座談会のほう、大体毎年30件くらいは交付金の申請をいただいておりますし、ほぼ毎週のように私どもの職員、集落のほうに週末、出かけさせていただいているというようなこともございますんで、そういったときに実際膝を交えてお話や説明をさせていただいて、その中で意見交換をさせていただいて、今後の方向性、探ってまいりたいというふうに思います。以上です。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） 次に、住民説明会についてお聞きします。先ほど町長の答弁では、昨年の5月と6月に学校跡地利用検討委員会報告書の説明会をしたが、参加者が少なかったと。だから、今回、日野町リノベーションLabの住民説明会はしないんだというように聞こえましたが、そういうことですか。

○議長（中原 信男君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 旧黒坂小学校の活用について、活用検討委員会さんからいろんなアイデアが出て、それを整理する、さらには、どういうふうにして進めていくかっていうようなことを、今、このリノベーションLabの、どういうんですか、活動を通してっていうことでございます。説明会ってというのは、私もこの、どういうんですか、百聞は一見にしかず、どういうことをやってるか、そこでどういう課題を解決していこうか、さらにはどういう卵を温めていこうか、そういうのに参加していただくほうが、もう時期としたらいいんじゃないかと思ってます。そういう面に関心を持っていただくために、いろいろイベントをさせていただく。さらには、今ちょっとまだ住民の方にその姿が十分見えてないっていう部分があるとしたら、その研究機関との、研究機関がいろんなことを、地域の課題を捉えて、それに対してどういうふうな方向づけとか、この町ではこうじゃないか、そういうような研究活動、情報収集、情報発信の活動の中に、住民の方の参画がまだちょっと見えてこない。そういった活動を活発化させていかないといけない。それをもって住民への浸透度を高めてまいりたいというふうに考えているところであります。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） いえ、質問は、町長が今、去年の説明会をやったんだけど、参加者が少なかったから、今回はやらないよというようなことをおっしゃいましたよね。そういう意味なんですかと確認の質問です。

○議長（中原 信男君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 中山議員の説明会なんですけれども、町長が申し上げたかったのは、説明の労を惜んでいるわけではないということでございます。ただ、説明会、残念ながら、なかなか来ていただくことがありませんので、なかなか人的面でも時間的にもリソースありませんので、なるべく効果的な方法で周知や住民の方の参画を促していきたいというようなところで、先ほど来申し上げてるようなやり方でやっていきたいということでございます。以上です。

○議長（中原 信男君） 町長、決して参加者が少なかったからやらないんだということではないということだね、そういうことでいいんですね。

4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） 説明の労を惜しまないということであれば、イベントもやって、説明会も両方並行してやればいいと思います。説明会なかなか来ないと今課長がおっしゃられたんですが、説明会のこれ、参加者を募るやり方を工夫すれば、来てもらえるのではないかと思います。例えば拠点、黒坂小学校跡地ですから、例えば黒坂の地区の方に特に来てもらいたい。来てもらうにはどうすればいいかという、一番効果的なのは、全部のおうちに訪問すると、来てくださいというのが一番効果的だと思います。黒坂1区から7区まで全戸訪問すると、私の経験から、5時間くらいでできます。町の職員の方が回られてもいいですけど、一番効果があるのは町長が回るのが最高の効果、いいと思います。これやると町民の皆さん、もう関心を持つと思います。町長、5時間、時間ありませんか。町長がじきじきにやっぱり家庭を訪問されると、皆さん来てくれますよ。町長は以前から町民の皆さんと話したいとおっしゃってますし、いいタイミングだと思います。この事業にかける町長の本気度を見せませんか。もし、1人で回るのが嫌だったら、私も一緒に回ってもいいですよ。どうですか。

○議長（中原 信男君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 温かい提案ありがとうございます。ただ、5時間で回れるのかなと思って、回るだけだったら5時間かもしれませんけれども、そこでお話をしたり、説明をしたりなんかしたら、とても5時間では回れないと思います。一緒に回っていただけるっていうようなんだったら、何かそういう、これに限らず、いろんな機会を捉えて、つくってまいりたいと思います

ね。

それと、説明会、説明会にこだわられるんですけど、決して説明会、来てくれって言われたり、何かちょっと話聞きたいわ、また、担当課のほうもそういう集まりがあったときに、どういうんですか、説明もされてるみたいで、決して拒むわけではないんですけども、先ほどから言いましたように、もう既にこのL a b始まってまして、体験ができる、さっき言いましたよね、百聞は一見にしかずなんです。ぜひ参加していただきたい。そして、先回も6月の4日ですか、そのときも町民さんばかりじゃなくって、町出身で、今、米子に住んでおられる方、こういった方も参加していただいている。こういう輪を広げていくためには、何が今ポイントかっていうと、研究機関さんが、今いろいろしていただいているんですけど、その情報をもう少し発信できるように、その進行管理っていうんですか、それはしないといけないし、また効果的なイベントもしていかないといけないかなっていうふうに考えております。以上です。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） 町民の方に、体験して実際に見てもらいたいと。ぜひ参加してもらいたいということですので、じゃあ、まず、参加してもらうには、参加してもらうための情報を発信しなきゃいけない。やっぱり何かにつけ、説明はしたほうがいいと思います。町長、時間つくってください。時間あるとき言ってください。一緒に回りましょう。やはりこれ、住民が主役の事業です。多くの方に参加してもらうことが成功の鍵です。イベントに参加してもらったり、よく検討委員会などもやるんですけど、決まった人たちだけ、少人数の方たちだけで、イベントに来た人たちだけで進んでしまうということはよくない。やはり、もっと多くの方、できれば全町民に関心を持って参加してもらうような方向に持っていかなければいけません。イベントに来てくれた人たちだけで進めるということがないように、よろしくお願いします。

では、次のテーマに行きます。日野高校への支援についての質問をいたします。日野高校の存続について、特に生徒募集について。私、毎年質問してるんですけども、毎年同じ質問をします。そうすると、毎年同じ、情報発信、PRが足らなかったのではないかと、次は情報発信に力を入れると、毎年同じ答弁をもらってます。昨年12月にも、生田教育長の答弁では、入学者が減った原因はPR不足だった。その反省に基づき、生徒募集に力を入れていくという言葉ももらいましたが、今回もやはりPRがよくなかったということになってしまいました。

日野町は日野高校へ、過去全部累計すると1億円以上の支援をしております。駄目でした、日野高校潰れてしまいましたでは、町民に説明が付きません。もうこれ、結果を出すしかありません。そこで、魅力化、魅力化、魅力向上と言ってるんですが、まず、この魅力化という言葉、こ

れ、とにかく生徒を呼べる学校という意味で魅力化としますと、どのような高校が魅力ある高校、つまり日野高校が目指している、こちらが支援して、そういうほうに持っていきたい、どういう高校にしていきたい。魅力、つまり魅力化とはどういう意味でおっしゃってるのかをちょっとお聞きしたいと思います。町長は魅力化についてどうお考えですか。

○議長（中原 信男君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） たくさんのことを今おっしゃられたんで、ちょっと頭の中を整理しないといけないのかなと思いますけれども、まず、日野高校の魅力化、私、この魅力化っていう語彙っていうか、文字を使われたときに思ったのは、一番印象的だったのは総合学科っていうことです。普通科で、要は暗記をして次の大学の入試試験に備えるためだけじゃなくって、総合学科でいろんなことが勉強できる、自分の進路をいろいろ選べる、そういったことが一つの大きな魅力だと思ってます。それをさらに高めていく。そのためにはどうしたらいいか。学校にいる間に、いろいろな勉強、世間の方っていうか、いろんな専門の方とお話をしたり、それから、実習をする。そういうのを高めていく。地域に出かけていくっていうような機会が多いっていうのもこの魅力化の中の一つだと思います。一つでは恐らく定義できないと思います。

それと、前段のほうでおっしゃいました、毎年毎年、毎年っていうか、日野高校の入学者数が目標に達しなかった原因は何かっていうようなことで、情報発信がうまくいかなかったっていうような、これ、この3年間、物理的にそうなんですよ、基本は。ただ、それを克服していきましようよということで、去年も掛け声をかけてやったんですけれども、なかなか訪問する中学校であったり、ユーチューブとかそういうようなのも、ちょっと、要は来ないでくださいとか、そういうようなんがあって、なかなかその計画どおりの情報発信ができなかったっていうのと、また、新しい局面として、去年、今年の入試にあっては、やっぱり県内の高校、競争倍率が1倍を下回ってます。もう、各学校とも入学者数の確保に血眼になってます。いなげなやり方ではもう駄目なんです。お互いもう競争をやってる中で、私学さんなんかもすごい頑張っておられる、そういうようなことがあります。

そして、これも校長さんに話すんですけれども、広島有加計高校、1学年1学級でもう廃校寸前だったけど、今年の入試は広島県下で一番高く倍率になった。それはどういうことかっていうと、在校生、卒業生から生徒さん、卒業生から情報発信をしてもらった。そういうようなことも勉強になりましたので、そういう取組もぜひできないかっていうようなお話を今させていただいてるところであります。そのくらいでよかったですか。以上です。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（４番 中山 法貴君） では、教育長にもお伺いします。高校魅力化という言葉をどのよう
に捉えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（中原 信男君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） では、御質問にお答えいたします。

先ほど町長のほうからもありましたが、それ以外ですと、日野高校独自の教育課程であります
とか、そういうのもやはり魅力化につながってくるのではないかと思っております。現在、校長
のほうとアウトドアを活用した教育課程が組めないだろうかと、そういうようなちょっと相談も
しております。今後、そういうふうなことも計画していきながら、さらに日野高校のほかの学校
との差別化を図りながら、魅力化を図っていくということも考えていきたいと思っております。
以上です。

○議長（中原 信男君） ４番、中山法貴議員。

○議員（４番 中山 法貴君） 結果を出さないと、もうどうしようもないところまで来ておりま
す。結果を出すために魅力化を進めていくんですけれども、ちょっとここで魅力化について話を
したいと思います。いろんな、先ほど成功事例がある、成功事例も研究してるとおっしゃいまし
たが、いろんな学校の成功事例を見ますと、やはり共通するものがあると。つまり魅力化、いろ
んなやり方ありますが、やはりセオリーというのがあります。それ、何かといいますと、高校で
育った生徒が、自分の進路を実現すると。自分の考えを持って、その進路を実現すると。その生
徒が卒業して、地域のリーダーになると、そして各地で活躍するというような人材を育てている、
ここが成功している傾向があります。これができる高校には、やはり子供も保護者も魅力を感じ
て、人が集まっています。これが魅力化の王道だと思います。とにかく進路を実現させると、まず
はそこです。そのために日野町や日野郡では、いろんなサポートをしていただきたい。生徒自ら
が地域の将来、自分の将来を考えて行動することを目指す。それができるように周りはサポート
すると。生徒の興味を、関心をいかに引っ張り出して、それを生徒自ら実行できるようにするか。
それをいかに地域全体でサポートするか。それをコーディネートするのがコーディネーターです。
高校生が地域に出て、地域の人と話をしたよ。よし、これをPR材料にしようとか、そういうこ
とじゃないんです、魅力化っていうのは。それも意味はあることです。それもやっていただい
ていいんですが、魅力化ということをややはり考えて、キャリアや進路実現がやはり魅力化の王道、
そこを考えてやっていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（中原 信男君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） アウトプットというか、アウトカムのところも大切だっていう御意見は非

常によく分かります。魅力化の中でいろんな選択肢、そしてそれを実現できるっていう中で、これも今年度、学校に提案したり、いろんなこと調整してるんですけども、もっと地域の資源っていうか、極端に言えば、いろんな職種があります。農業であったり、介護の関係であったり、いろいろあるんですけども、医療従事者、日野病院さんにそういった、どういうんですか、高校生がちょっと学ぶような、そういったことがしてもらいたいなっていうようなお話もしましたし、また、連携協定を結んだ金融機関とか生命保険会社、さらには国の機関、要は金融とか資産の関係のフィナンシャルプランナーとか、いろんなそういうのがあるんですけども、そういうのにこの田舎はなかなか触れることができなくて、自己実現の選択肢に入っていない可能性があるんで、やはりそういったことも学べる商業ビジネスコースもありますので、いろんなことを、従来のつながりとかだけじゃなくて、あなた方の、日野高校に来たら、いろんな世界をかいま見て、自分の進路を自己実現できるよっていうような、そういう情報発信も必要だっていうふうに学校とも話してますので、議員さんのおっしゃられることはよく理解できるところです。以上です。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員。

○議員（4番 中山 法貴君） 私も日野高校を何とかしようと思ってきました。考えた結果、私は昨年2月に日野高校を受験しました。日野高校に入学しまして、生徒になって、生徒の立場から……。

○議長（中原 信男君） 中山議員、時間が来てますので質問をまとめてください。

○議員（4番 中山 法貴君） かしこまりました。

内部から変えてやろうと、それぐらい考えました。結果、落とされてしまいました、受験には。この作戦、失敗しましたが、それぐらい体を張るぐらい、町もやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。質問を終わります。

○議長（中原 信男君） 4番、中山法貴議員の一般質問が終わりました。

○議長（中原 信男君） お諮りいたします。本日の会議はこれで散会といたしたいと思っております。これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中原 信男君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定いたしました。

会議の再開は、6月16日午前10時といたします。御協力ありがとうございました。終わり

ます。

午前 11時35分散会
